

## 海徳海山の火山活動解説資料

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

8月23日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、海徳海山で変色水が確認されました。今後、海底噴火が発生する可能性があるため、23日20時00分に噴火警報（周辺海域）及び火山現象に関する海上警報を発表しました。

### 防災上の警戒事等項

海徳海山の周辺海域では、海底噴火に警戒してください。また、海底噴火による浮遊物（軽石等）に注意してください。

### ○ 活動概況及び防災上の警戒事項

23日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、海徳海山（東京の南約1050km、母島の南西約120km）付近で、円形の黄白色の変色水（直径約100m）が確認されました（図1）。変色水が確認された場所は、北緯26度7.3分、東経141度5.6分で、東海徳場（図3）とほぼ同じ位置です。

変色水は火山活動の活発化を示していると考えられ、今後、海底噴火が発生する可能性があるため、23日20時00分に噴火警報（周辺海域）及び火山現象に関する海上警報を発表しました。周辺海域では噴火に警戒してください。

海徳海山では、1984年3月から同年6月にかけて噴煙や軽石の噴出が認められるなど、マグマが直接関与した可能性のある噴火が発生しました。その後、1984年12月及び1986年6月には変色水が、2001年7月には、海底からの気泡湧出がそれぞれ確認されています。2001年8月以降は、噴火や変色水、気泡湧出等の特異事象は認められていませんでした。

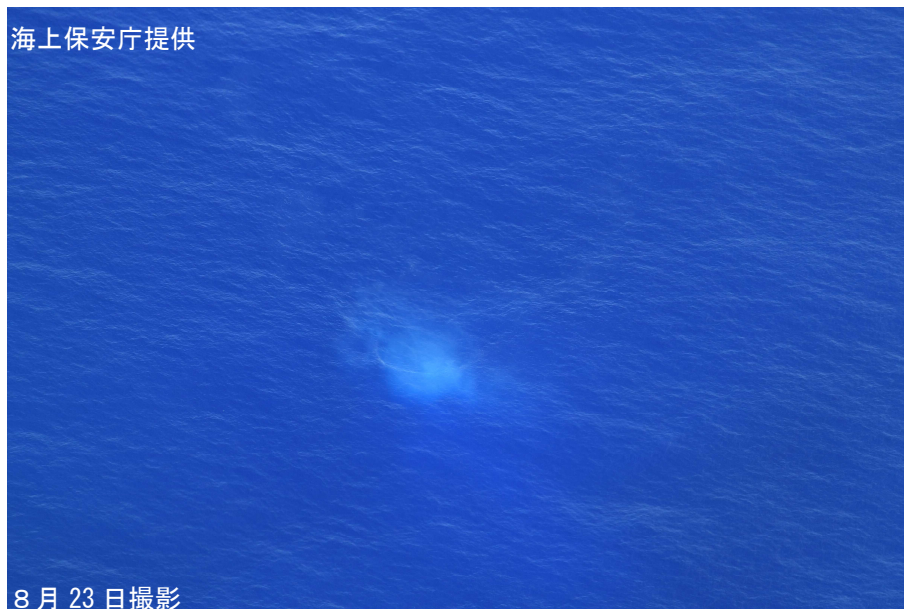


図1 海徳海山の変色水（13時49分から13時57分の観測中に撮影）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は、海上保安庁及び海上自衛隊のデータを利用して作成しています。

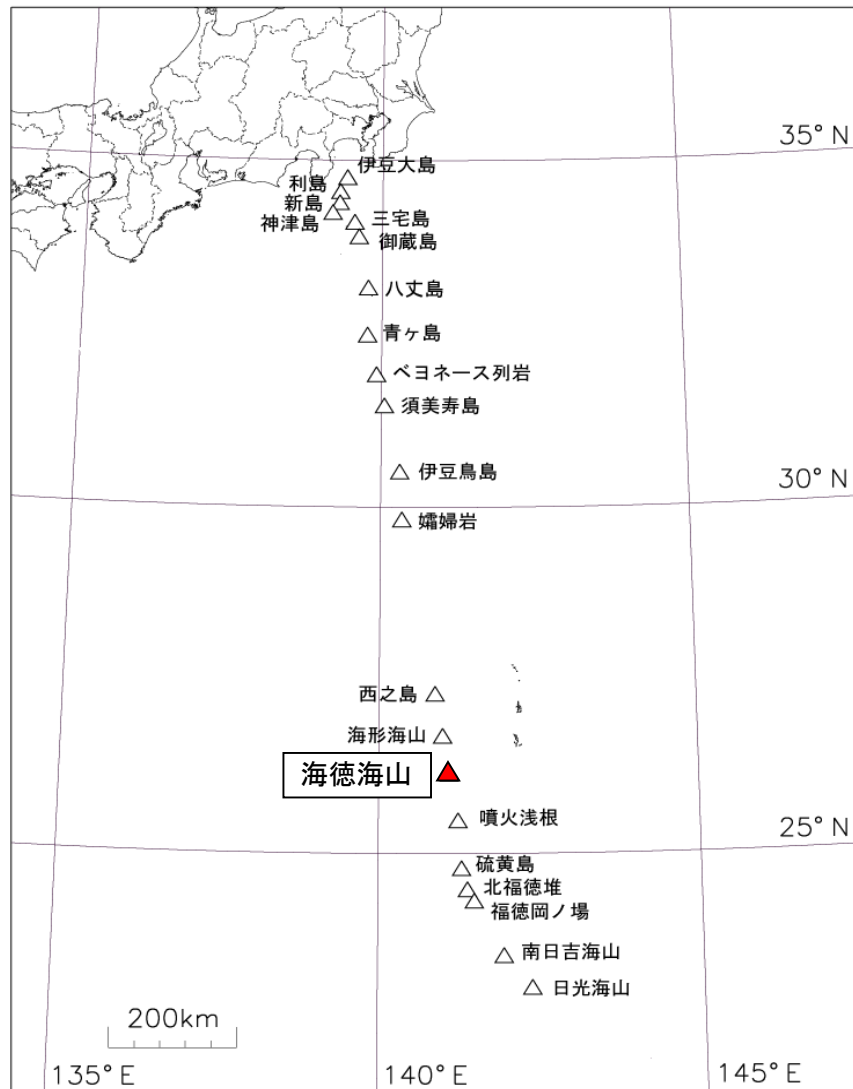
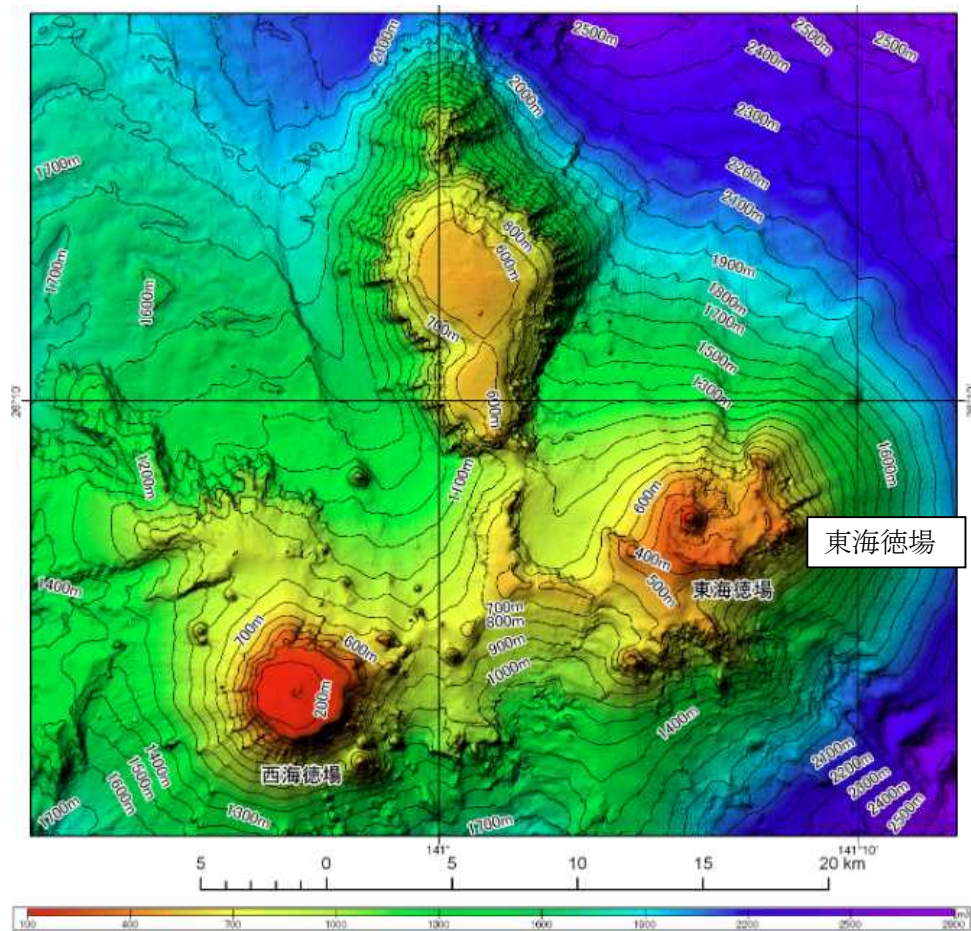


図2 伊豆・小笠原諸島の活火山分布及び海徳海山の位置図

海徳海山は、東京の南約 1050 km、小笠原諸島母島の南西約 120km に位置します。



海徳海山は3つの峰から構成されます。南にある2つの峰はその位置により、それぞれ東海徳場、西海徳場と呼ばれています。

図3 海徳海山付近の海底地形図

8月23日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、海徳海山を構成する3つの峰の1つである東海徳場とほぼ同じ位置の海面上で変色水が確認されました。東海徳場の水深は97m、位置は北緯26度7.5分、東経141度6.0分です。  
(海底地形図、東海徳場の水深及び位置情報は海上保安庁海洋情報部 海域火山データベース (<https://www1.kaiho.mlit.go.jp/GIJUTSUKOKUSAI/kaiikiDB/kaiyo20-2.htm>) を引用し、海底地形図には加筆)

### 海徳海山

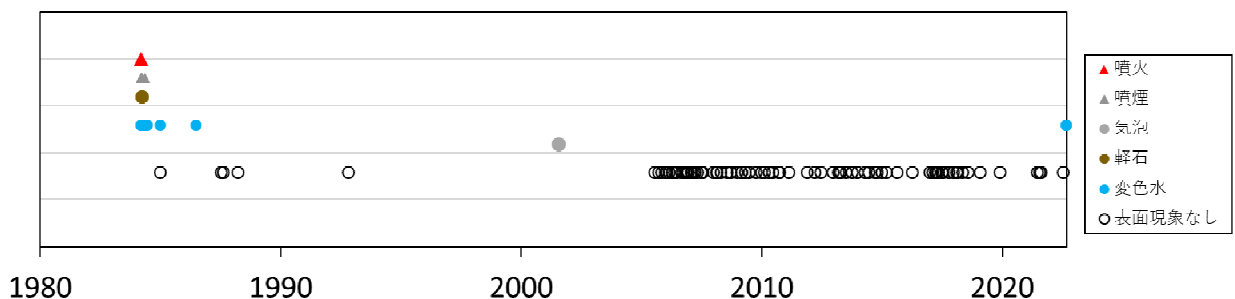


図4 海徳海山 1980年以降の活動状況

シンボルがあるタイミングで観測が行われています。▲及び△はそれぞれ噴火及び噴煙(1984年)を示します。●及び●はそれぞれ変色水及び軽石が認められた観測、○は変色水等が認められなかった観測、●は気泡が認められた観測を示します。  
海上保安庁、海上自衛隊、気象庁、漁船及び報道機関等の観測による。